

## 震災3銭切手1枚貼りの、 朝鮮における鉄郵印使用例

朝鮮の元山（ウォンサン）と北青（プクチョン）の間における鉄道郵便に関する具体的な情報（特定の列車、運行記録など）は、現在のところ見つかっていない。

一般的に、日本による統治時代に朝鮮半島全土で鉄道網が整備され、郵便輸送にも利用されていた。元山は日本海側の重要な港湾都市であり、京元線などを通じてソウルや他の地域と結ばれていた。北青も咸鏡南道に位置しており、元山との間で鉄道による郵便輸送が行われていた可能性は高いが、その詳細については不明である。

右図のエンタエアは、震災3銭切手1枚貼りで、朝鮮の新上（封書裏面より）から内地の小倉市内宛てに差立てられたものである。楕型鉄郵印で、元山北青間／14. 5. 22／上三／北青發後 3.50、が極めて鮮明に押されている。

元山北青間とは、朝鮮北東部の沿岸を走る咸鏡本線の路線で、同北部東海岸の中心都市である元山から、遙か満州との国境・上三峰まで伸びる同線の途中で北青がある。

朝鮮における鉄郵印で、使用が確認されているものは約50路線あり、その内「釜山京城間」、「京城新義州間」、「京城元山間」等は比較的好く見かけるが、その他の路線名はぐっと数が減り、さらに全体的に消印の不鮮明なものや状態の良くないものが多い。

（日本郵楽会会員：西川 恵久）

小翁市針包  
一三二八  
持了甲瑞山  
紙

